

新任社外取締役メッセージ

日立に対する貢献

まず、私の経歴についてご紹介します。私は、世界のグローバル市場で多様な事業を展開する企業、ソニーにて、約40年間にわたり、キャリアを積み重ねてきました。その中で、主に携わった事業は民生用エレクトロニクス事業と金融事業ですが、特に民生用エレクトロニクスの市場は変化が激しく、そこで多様な経験を蓄積してきました。例えば、携帯電話事業では、欧州の大手通信機器メーカーと事業統合を行い、合併会社の統合プロセスを直接に指揮しました。また、テレビ事業では、ブラウン管から液晶への技術転換期に、世界各地に分散していたアセットを短期間に入れ替える構造改革も行いました。このような経験を通じて、時代や技術の変化を先取りしつつ、経営の優先順位をつけること、さらには、変革期の企業に求められるタイムリーかつスピーディーな経営判断の重要性などを学び、実践してきました。

このたび、日本を代表する企業である日立の社外取締役に就任する機会を得て、大変に嬉しく思います。社会のさま

新たな価値を提供する企業に

「IoT時代のイノベーションパートナー」をめざす日立は、OT、IT、プロダクトの強みをグループ内に有し、これらを統合したデジタルソリューションを提供できる世界でもユニークな企業です。そして、幅広い分野の事業をグローバルに展開して、さまざまな社会の要請や企業の経営課題の解決を支援し、世の中に多くの価値を提供することが期待されています。

これまで、トップの強いリーダーシップのもと、日立はさまざまな事業のトランスフォーメーションに取り組み、一定の成果を収めてきました。2018中期経営計画の目標も全社を挙げて達成すべく取り組んでいますが、これは通過点にすぎません。世界のグローバルカンパニーに伍していくためには、さらに継続的なトランスフォーメーション

取締役としての抱負

日立には、世界を代表するエクセレントカンパニーとなるポテンシャルが十分にあります。2021年度に向けた次期中期経営計画は、日立がエクセレントカンパニーになるためのプランであり、その議論が本格化するこの時期に取締役に加わったことを大変に嬉しく思います。

日立のさらなる成長の実現に向けて、私たち取締役会が執行役を支援し、監督する立場から、大きな役割を



井原 勝美

ざまな課題を、日立のもつテクノロジーやイノベーションによって解決していくビジョンに大きな共感を覚えます。日立は今、グローバル市場におけるメジャープレイヤーになるべく、さらなる改革を推し進めているところです。私は、これまでの経験、知見を生かして、グローバルに成長をめざす日立の経営に対して有益なアドバイスを提供していきたいと思えます。

の実行が必要とされます。事業ポートフォリオの継続的な見直し、海外事業の強化、それらを通じてグローバルカンパニーにふさわしい利益の創出がなお求められていると思えます。

併せて、日立は大変に幅広い事業を展開しているため、グループに非常に多くの連結子会社を有しています。それゆえ、日立の全体像を理解することは容易なことではありません。したがって、日立の企業理念やビジネス戦略をさまざまなステークホルダーにこれまで以上に分かりやすく説明し、理解と共感を得ることが重要と考えます。グローバルな環境で、さまざまなステークホルダーとのコミュニケーションを積み重ねることが、日立の企業価値をなお一層高めていく一助になると思えます。

果たすことが求められています。私は、監査委員ならびに報酬委員としての責務も担うため、取締役会以外においても、自らの経験を生かしつつ、さまざまな意見、提言を行っていききたいと思えます。多様性に富んだ、多くの知見を有する取締役会の一員として、日立のさらなる成長、ならびに企業価値の向上に貢献していきたいと考えています。

グローバルな経験・知見で日立に貢献

長年にわたり多くの成果を成し遂げ、日本企業の代表である日立の社外取締役役に就任する機会を得たことを大変嬉しく思います。今回のお話をいただいたとき、次の3つの理由から迷うことなくお受けしました。

まず、以前より日立に対して深い尊敬の念を抱いていたからです。私は、General Electric Companyや住友スリーエム(現:スリーエムジャパン株式会社)のマネジメントとして日本で勤務した経験があります。日立をはじめとした日本企業が優れた組織力などを強みに、さまざまな業界で、世界のデファクトスタンダードとなる高い品質を実現し、革新的な製品やサービスを生み出すことで、日本が世界有数の経済大国になっていく姿を目の当たりにしました。

次に、欧州やアジアを中心に、ファイナンスと事業の両部門で培った私の経験や知見が、日立の今後のグローバルな成長の役に立つと思ったからです。



ジョー・ハーラン

現在、コーポレートガバナンスへの取り組みが進んでいる中、日立は、独立性の強い取締役会を有していると高く評価されています。そのような素晴らしいガバナンスをつくり上げている取締役の一員として日立の成長に貢献したいと思ったのが最後の理由です。

イノベーションとブランド価値向上が、グローバルNo.1への条件

企業が厳しい競争環境の中で、株主へしっかりと還元をしながら存続するためには、成長が不可欠です。成長を続けてこそ、より多くのビジネスチャンスが増え、さらなる研究開発への投資が可能となり、結果としてより素晴らしい製品・サービスやソリューションを生むことができます。

成長のカギは、コア事業をサステナブルに維持しながら、その強みを応用した新領域でイノベーションを創出することです。日立は創業以来、他社では実現のできない優位性をもった製品・サービス、ソリューションの提供を通じて、常にお客様の成功や発展に貢献してきました。これからは、日立のもつ現場での知見やデータをLumadaと組み合わせることで、グローバルでの「IoT時代のイノベーションパートナー」になり得ると考えています。

日立グループはお客様にトータルソリューションを提供できることも優位性の一つといえます。例えば、鉄道

分野では、車両のみならず、駆動システム、運行管理システム、信号システム、予約・発券システムなども含めて、End-to-Endのソリューションを提供できるような会社はあまりないでしょう。日立はこのようなソリューションをエネルギー、水、金融、ヘルスケアなどさまざまな分野に展開することができます。この素晴らしい日立の強みや価値は、研究開発やマーケティングに支えられながら、長い年月をかけて築き上げてきたものであり、株主、投資家、お客様、従業員といったステークホルダーにしっかりと伝えて理解、共感してもらうこともまた、継続的な成長にとって重要な要素です。「優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する」という日立の企業理念に、世界中の人々から共感してもらうことで、日立ブランドの価値向上を一層図るべきです。

社外の多様な視点で日立の成長を加速させる

成長とは絶え間ない挑戦の連続であり、組織に変化や変革を促すものです。私たち社外取締役の異なる多様な視点を執行役が経営に反映することで、建設的な変化や変革の風土が醸成され、最終的にステークホルダーにとって良い結果をもたらすでしょう。経験上、変革が成果につながることを理解している私は、OT・IT・プロダクトの強みを生かして、社会イノベーション事業を成長させていく

日立に期待を寄せています。日立がこれらの強みを生かして、お客様との協創の推進や、競争力ある事業分野がさらに成長できるよう、社外取締役としての私の知見を最大限に提供していきます。

日立が真に競争力のあるトータルソリューションをお客様に提供し、大きく成長していく過程に、取締役会の一員として貢献できることを、誇りに感じています。